

卵巣年齢検査:AMH(抗ミュラー管ホルモン)検査

あなたはご自身が何歳まで、妊娠出産が可能だと思いますか？
これから妊娠出産をお考えのご夫婦には、ご自身の『卵巣年齢』を把握したうえでの人生設計をお勧めします。

卵巣年齢を知るには？

AMH(抗ミュラー管ホルモン)を測定することで、卵巣内にどれだけ卵子が残されているか(卵巣の予備能)、を予測することができます。女性は、卵巣に一生分の卵子を持って生まれ(約200万個)、時間経過とともに大量に減っていきます。思春期には約30万個、無排卵の人でも、ピルを服用している人でも毎月数100個単位で消失し、30代後半には約3万個、40歳では1万個程度、そして平均50歳、1000個前後となれば閉経となります。閉経からさかのぼること10年の妊娠は容易ではありません。

一般に、40歳を超えての妊娠は相当に難しいこととなります。閉経の時期や卵子の減り具合には個人差があります。若くして妊娠能力が低下してしまう人も決して少なくありません。果たしてあなたには、妊娠可能な期間がまだ長く残されているのでしょうか？

AMH(抗ミュラー管ホルモン)は、その残された時間を予測する検査となります。

卵巣老化の兆しに要注意!

卵巣年齢が上昇すると、不妊治療への反応が低下し、妊娠効率が上がりにくくなります。実年齢より若く見える人もいれば、老けて見える人もいるように、卵巣年齢も、実年齢と同じとは限らず、大変個人差の大きいものです。あなたの卵巣に、衰えの兆しはありますか？卵巣の老化が進みやすい習慣や体質はありませんか？卵巣年齢を警戒すべきチェックポイントを挙げてみます。あてはまる項目がいくつあるか、チェックしてみてください。

卵巣の老化を警戒するチェックポイント

【月経の様子から】

- 月経周期が短いまたは月経周期が短くなってきた(25日以下は要警戒)
- 月経量が減ってきた
- 基礎体温の高い時期が短い
- 月経前に不正出血がある

【治療歴から】

- 排卵誘発剤への反応が悪かった
- 予想よりはやく排卵が終わっていたことがある
- 卵巣の手術をしたことがある(チョコレート嚢腫)
- 流産の経験がある(化学流産:ごく初期の流産も含む)
- FSH(卵胞刺激ホルモン)の値が高いと言われた

【生活習慣から】

- 体重の異常(やせている、肥満である)、過去に大きな増減があった
- 喫煙をしている
- 生活が不規則である、ストレス、疲れがたまっている
- 睡眠不足、不眠症である
- ふだんあまり運動をしない

【体質などから】

- 35歳以上である
- 冷え性である
- 内臓脂肪が多い、メタボ体質である
- 初潮(はじめての月経)が早かった
- 母親の閉経が早かった
- 家族に糖尿病の人がいる

検査料金

AMH(抗ミュラー管ホルモン検査)

7,560円(税込)